

## 研究機関名：東北大学

受付番号：	2011-262
研究課題名：	血液透析中の心房細動患者における抗凝固療法の評価
研究期間	西暦 2011年 9月（倫理委員会承認後）～ 2014年 3月
対象材料	<input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（診療録）
上記材料の採取期間	西暦 2011年 9月～2011年 8月
意義、目的	<p>心房細動患者は心原性塞栓症の発症頻度が高く、その発症を1/3まで低下させるワルファリンを用いた抗凝固療法がしばしば行われている。血液透析中の心房細動患者は、心原性塞栓症にハイリスクと考えられ、多くの症例で抗凝固療法が行われてきた。一方、透析患者では抗凝固療法に際しての出血性リスクが高いこともよく知られている。そのため、透析療法中の心房細動患者に対して、抗凝固療法を施行するべきか、議論となっている。</p> <p>本研究では、後ろ向きに診療記録を解析し、参加施設ですでに治療した症例および治療中の、透析療法中の心房細動患者の凝固療法と心血管イベント（脳梗塞、心筋梗塞等）の関係を明らかにする。</p>
方法：	2011年9月1日より2011年8月31日までに研究参加病院で継続的に血液透析を受けた（受けている）心房細動患者全例の治療内容及びその予後について診療記録を基に調査し、データを東北大学に集積し、解析する。
問い合わせ・苦情等の窓口：	堀内久徳：〒980-8575仙台市青葉区星陵町4-1 東北大学加齢医学研究所基礎加齢研究分野 Tel&Fax:(022)717-8463、E-mail: <a href="mailto:horouchi@idac.tohoku.ac.jp">horouchi@idac.tohoku.ac.jp</a>